

令和 5 年 6 月 2 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01442

研究課題名（和文）ヨーロッパ周辺諸国における政党システムの変容と民主シー

研究課題名（英文）Political System Change and Democracy in European Peripheral Countries

研究代表者

平田 武（Hirata, Takeshi）

東北大学・法学研究科・教授

研究者番号：90238361

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,900,000円

研究成果の概要（和文）：固定化した民主シーと見なされていた新興民主シー諸国（南欧諸国、東中欧・バルト諸国、ラテン・アメリカ諸国の一部）において、2010年代にほぼ同時に発生した政党システムの巨大な変容を分析する際に、着眼点として、ポピュリズムの抬頭ではなく、主流派政党の失墜に着目して分析した。分析結果は、日本政治学会の『年報政治学』2012 - 号に特集「新興民主シー諸国の変貌」として掲載された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1970年代半ば以降の移行によって成立し、固定化にも成功していた新興民主シー諸国において、2010年代に生じた政党システム上の巨大な変動を紹介したことだけでも社会的意義がある。それを説明する上で、ポピュリズムのような従来から存在した要因ではなく、主流派政党の失墜という新しい現象に着眼点を置いた点は、本研究の学術的意義である。それが国によって、新興政党の抬頭や、強権的政権による民主シーのバックスライディングや、政権フォーミュラの刷新を引き起こしているのである。

研究成果の概要（英文）： In the 2010s a huge transformation of party system occurs in the so-called new democracies in Southern and East-Central Europe or in parts of the Baltic Area and Latin America, where after successful democratic transition and consolidation, party system had been stabilized for several decades. This research, showing and analyzing this transformation, focused not on populism, which there had been already existed long before the 2010s in these regions, but on the decline of the main-stream parties of the center-right and center-left. Research results have been published in the Annuals of Japanese Political Science Association, vol. 72, issue 2 in 2021.

研究分野：ヨーロッパ政治史

キーワード：新興民主シー 政党システム変容 比較政治

1. 研究開始当初の背景

1970年代半ばに南欧諸国で始まった権威主義体制からのデモクラシーへの移行は、ラテン・アメリカ諸国における同様の政治変動を経て、80年代末には東中欧諸国における共産党独裁からデモクラシーへの移行を実現するに至り、その後も各地での政治変動に対して参照枠組みとなるパラダイムとして「民主化」という概念が普及する契機となった。今日こうしたパラダイムがいまだ有効であるのか、疑念が提起されるようになって既に久しいが、上記の地域における政治体制変動は民主化を帰結したと考えられていた。これらの地域の多くの国では、政党システムが安定化し(ラテン・アメリカ諸国の中には、政党システムが安定化した国と不安定な国とがあり、東中欧諸国では後者の例としてラトヴィアを挙げることができる)、多くの場合には左右二つのブロックが存在し、両ブロックには主流派となる代表的な政党が存在し、それぞれが(単独、または他の政党と連合して)交代で政権を担当していた。

ポルトガルなら、中道左派の社会党 PS と中道右派の社会民主党 PSD (左翼にゲッター化された共産党 PCP と、右翼に民主社会中央-人民党 CDS-PP)、スペインなら、社会労働党 PSOE と人民党 PP、ギリシアなら全ギリシア社会主義運動 PASOK (パソク) と新民主党 ND、1990年代前半に大幅な政党システム変動を経験して、新しい政党配列を持つに至ったイタリアでも、旧共産党系の左翼民主党 PDS=民主党 PD を中心とする左派ブロックとフォルツァ・イタリア FI を中心とする右派ブロック(北部同盟 LN=同盟 Lega、国民同盟 AN との連合で)が存在した。ポーランドやハンガリーなら、旧共産党改革派の系譜を引く政党(民主左翼同盟 SLD、社会党 MSzP) が左翼に、旧反対派の系譜を引く政党が右翼に(連帯系の法と正義 PiS や市民フォーラム PO、かつては青年民主同盟を名乗ったフィデス Fidesz)、チェコなら社会民主党 ČSSD と市民民主党 ODS、スロヴァキアなら EU 加盟交渉をめぐってメチアル派・反メチアル派という対立が生じたことからメチアル率いる民主スロヴァキア運動 HZDS とそれに対抗するキリスト教民主主義勢力を中心とする政治勢力といった具合である。

しかしながら、2010年代に入ってこれらの諸国では大きな政治変動が生じている。ハンガリー(2010年選挙から)やポーランド(2015年選挙から)で強権的な右派政権が成立してデモクラシーのバックスライディングが懸念されていることは周知のことである。ギリシアで新興の急進左派連合 SYRIZA (シリザ) が政権を担当して、欧州債務危機の最中で EU との交渉が難航したことは記憶に新しい。スペインでも 2014 年欧州議会選挙で反緊縮を掲げて彗星のように登場した Podemos (ポデモス) が、2019 年選挙の後に民主化後のスペインで初めての連合政権(社会労働党 PSOE 首班)を設立するに至った。チェコでは企業家の立ち上げた新興政党 ANO (アノ) 2011 が政権首班を担当するに至った(2017 年選挙以降、社民党 ČSSD との連合、共産党 KSČM の閣外協力で)。イタリアではコメディアン の立ち上げた新興政党である五つ星運動 M5S が登場し、2018 年選挙で第一党となると、中道右派連合政権 (Lega と)、次いで中道左派連合政権 (PD と)を生み出すなど、要党のような振る舞いをしている。

1970年代以降の政治体制変動で生じた、いわゆる新興デモクラシー諸国で何が起きているのか。西欧における従来の政党システム変容論は、リプセット=ロッキンの凍結テーゼを前提として、解凍の始まった政党システムの再編成・脱編成を選挙変易性の測定によって描き出したり、伝統的な左右軸に直交させる形で、脱物質主義的価値観を一方の極に置いて、他方の極に権威主義的価値観を置くことで、環境政党とポピュリスト急進右翼政党も含めた諸政党を二次元図上に配列したり、とりわけ後者のポピュリスト急進右翼政党の政権到達と同党の穏健化の関連をめぐって議論が展開してきた。しかしながら、2010年代に東中欧・南欧諸国において観察される政党システムの巨大な変動は、こうした議論とはレベルを異にしている。以上が、共同研究当初の背景である。

2. 研究の目的

固定化したデモクラシーと見なされていた新興デモクラシー諸国において、2010年代にほぼ同時に発生した政党システムの巨大な変容は、何によって説明されるのか、どのような特徴を有しているのかを、比較研究の中で明らかにすることが本研究の目的である。その際に、着眼点として、ポピュリズムの抬頭ではなく、主流派政党の失墜に着目する。

南欧諸国で見られる新党が左派ポピュリズム政党であり、ハンガリーやポーランドの強権的政権が右派のポピュリズム政党に率いられているとはいえ、これらの現象の新しさはポピュリズムにはない。ハンガリーのフィデスにせよ、ポーランドの法と正義にせよ、これらは以前にも政権を担った経験を持つ政党であり、新興政党ではない。ポピュリズムは、これらの地域にそれ以前から存在していた現象である。PASOK のアンドレアス・パパンドレウは典型的なポピュリストとされた政治家であり、フォルツァ・イタリアを設立したベルルスコーニもそうであった。

では、2010年代の新興デモクラシー諸国においてみられる政治変動の何が新しいのか。こうした現象の背後にあるのは、主流派政党の失墜である。ハンガリーでもポーランドでも右派の強

権的政治運営を可能にしたのは左派の劇的な支持喪失であった。ギリシアにおける SYRIZA の抬頭は PASOK の失墜とパラレルである。チェコでの ANO の興隆も市民民主党 ODS と社民党 ČSSD の支持喪失と並行して進んだ。イタリアでも五つ星運動 M5S の登場はフォルツァ・イタリア FI や民主党 PD の不振を背景としている。こうした現象の先駆けとなった事例を探すと、スロヴァキアの方角 Smer (スメル) の抬頭が挙げられるかもしれない。2006 年選挙に勝利して政権を担った方向のフィッツォ政権は、2018 年のジャーナリスト殺害事件を契機にフィッツォの辞任、2020 年選挙での敗北に至るが、EU 加盟実現によってメチアルをめぐる争点が意味を失い、この間に民主スロヴァキア運動 HZDS も反メチアル派だったキリスト教民主主義政治勢力も議会から姿を消していた。民主化後の政権を支えていた主流派政党が、欧州債務危機や難民危機(南欧諸国)、あるいは EU 加盟交渉の実現(東中欧諸国)などを背景として、若年層の支持の取り込みに失敗し、急速に衰退していったことがこの変貌の背景にあるように思われる。

共同研究の過程で、対象国を、南欧諸国・東中欧諸国に加えて、ラテン・アメリカ諸国の中から、民主化後に政党システムの制度化・安定化が観察されていながら、新興左翼政党が政権を獲得したメキシコ的事例と、バルト諸国の中から、民主化後の主要政党の顔ぶれが比較的安定していた中で、左右両極連合という新奇な政権フィーミュラの成立を見たエストニアとに拡大した。

3. 研究の方法

本研究は、研究参加者が個別研究を遂行しつつ、合同で研究会(「比較ヨーロッパ政治研究会」)を開催する形で進める。本研究参加者の行う個別研究には、各国の事例に関する個別研究の他に、各地域に関する比較研究も含まれる。

合同での研究会では、政党システム変容を分析するうえで参照されうる比較政治理論の紹介(サルトーリの政党システム論と、リブセット=ロッキンおよびバルトリニ=メアーの亀裂論・選挙変易性論は当然として、スコット=フラナガン=ベックらの再編成・脱編成論、ピーター・メアーの政党間競争構造論、新興政党の分析モデルとしてキツェルトやデラポルタの提起した運動政党論、ホプキン=パオルッチがパーネビアンコの専門職選挙政党の極端な事例として提起しているビジネス起業家政党論など)を行い、分析概念や理論枠組みの共有を図る。

参加者の行う個別事例研究・地域内比較研究の成果を踏まえた上で、合同研究会ではそれらの成果を持ち寄って、地域間比較を通して、2010 年代の政党システム変容に共通する要因は何か、この政党システム変容にはどのような特徴があるのか、を明らかにしていく。

4. 研究成果

主要な研究成果として、日本政治学会の『年報政治学』2021-II号に、特集「新興デモクラシー諸国の変貌」として、以下の諸論文を掲載した。

横田正顕「先鋭危機と政党システム変化——2010 年代のスペイン・ポルトガル・ギリシア」は、欧州債務危機・欧州難民危機(そして、パンデミック危機へと続く)という一連の尖鋭な外生的危機のもとで生じた南欧 3 国における政党システム変化を、主流派政党の緊縮政策への政策的収斂を分岐点として、主流派政党のカルテルの衰退、「代表の危機」の発生、「運動政党」タイプの左派ポピュリズム挑戦者政党の抬頭の 3 点を軸に、比較の俎上に載せる。結果として、ギリシアでは二大政党の一方に入れ替わりが起き、スペインでは政党間競争構造(P・メアー)が開放的なものになり、ポルトガルでは左翼における共産党に対する防疫線が消滅した(共産党 PCP、左翼ブロックの閣外協力による社会党 PS 少数派政権)。著者は、それぞれの局面で起こった変化の 3 国間での相違に注意を払いながら、変化のプロセスを追っている。

仙石学「ジェンダーと反欧州——ポーランドにおける若年層の政治意識」は、東中欧諸国の直近の選挙における主流派政党の支持者の高齢化傾向を一瞥したのちに、ポーランドにおける若者の政党支持の世論調査データを紹介し、若者の間ではジェンダーによって左右の支持が大きく異なっていることに注目する。2000 年代前半の市民プラットフォーム PO 政権と同後半の法と正義 PiS 政権とから共通して疎外されていると感じる若年層の間に見られるジェンダーによる相違を、著者は、女性や LGBT の権利を重視する新しい左派への女性の支持と、ジェンダー平等を外からの圧力と捉える反欧州の新興右翼政党への男性の支持として説明し、それがさらに、分割期以来のポーランドの思想的伝統である欧州志向と自国志向という相違に重なっていることを指摘している。デモクラシーのバックスライディングが指摘されているポーランドとハンガリーで(左派系)野党の復活の兆しが見られることには注目したい。

中田瑞穂「ヴェイレンス・イシューの政治——チェコにおける『ビジネス企業政党』ANO」は、中道右派の市民民主党 ODS、中道左派の社会民主党 ČSSD という左右の主流派政党が失墜する中で、2013 年選挙で突如として議会に参入し、当初は左派政権のジュニア・パートナーとして、次いで 2017 年選挙で勝利を取めると、首班を務めるに至る新興政党 ANO をイデオロギー、政党組織の二つの側面から分析する。イデオロギー的には中立な ANO は、反腐败や効率的な国家経営のようなヴェイレンス・イシューを強調し、組織面では純粋な専門職的選挙政党という特徴を示す「ビジネス企業政党」である。一企業家によって企業のための政治的パイプを目的に設立された政党が、政治的マーケティングによってブランドを確立・維持する様には嗟然とさせられるが、著者は最後に、こうした政党の成功がデモクラシーにもたらす含意をも考察している。

伊藤武「イタリア第2共和制における主流派政党の衰退」は、1990年代前半に、戦後イタリア共和国を特徴づけた諸政党、とりわけ政権の中樞をなしたキリスト教民主党と社会党とが瓦解し、野党共産党が変容した結果、フォルツァ・イタリア FI を中心とする右派ブロックと左翼民主党 PDS=民主党 PD を中心とする左派ブロックとからなる、いわゆる第二共和制と呼ばれる全く異なる政党編成が実現したが、その左右両派の主流派政党が、2010年代に入って劇的な衰退を経験している要因を分析する。民主党 PD の場合にも、フォルツァ・イタリア FI (国民同盟 AN と合併したのちの自由国民 PdL) の場合にも離党・分派活動が党勢衰退の契機となったことを重視し、左派の場合には系列組織の存在が、右派の場合には政党の個人化がそうした離党・分派活動の誘因となった可能性を指摘している。

馬場香織「メキシコの政党システム変容を捉える」論文は、ラテン・アメリカ諸国の中でも政党システムの制度化が進んだ、安定した政党編成を持った国とされていたメキシコを取り上げ、近年の政党システムの変容を捉える視点を整理する。2000年の民主化以降、旧体制政党である制度的革命党 PRI と、旧体制下の野党で中道右派の国民行動党 PAN、中道左派の民主的革命党 PRD の三党からなる安定した政党編成を持っていたメキシコは、2018年の大統領選挙・上下院選挙において、ロペス・オブラドールが大統領選で民主化後初めてとなる過半数の得票で勝利し、彼を推す新興政党 Morena が上下両院で第1党となる巨大な(極めて高い選挙変易性を示す)政党システム変動を経験した。著者はこれを、既存政党への不満の受け皿として新党が躍進した脱編成の事例というよりも、むしろネオリベラル経済政策にコミットした PRD から、同党から離反した Morena への左派政党の入れ替わり、左派の再編成として捉える視点を強調する。また著者は、組織犯罪に関連する暴力が選挙行動に与える影響についても考察を加えている。

中井遼「エストニア政権フォーミュラの刷新——左右両極連立と政党有権者関係」論文は、1990年代後半には政党編成が安定し、ネオリベラル経済政策を推進する改革党と、中央党を二大政党として、それに社民党と祖国連合が加わる四党で構成されてきたエストニアの政党システムが2010年代末に経験した変動を分析する。2000年代以降一貫して政権を握っていた改革党に対して、前体制からの連続性やロシア語系住民の支持などから野党に留まってきた中央党が、2016年にまずは連合の組み換えを通して政権を奪い、次いで2019年選挙後には極右政党と左右両極連合政権を組むに至った変化を、著者は P・メアーのいう政党間競争構造の変動として捉えた上で、左右両極連合という一見すると奇妙な組み合わせを、ネオリベラル経済・社会政策の犠牲者たちを支持基盤とする二党の連合として説明する。著者は、これら二党が、政策綱領ではなく、クライエンテリズムや個人的カリスマに基づく、地域的に固い支持基盤を有することを、このような極端な連合行動をとっても支持を失わずに済んだ要因として挙げている。

したがって、主流派政党の失墜が全ての事例で見られるわけではないのだが、少なくとも20年、国によっては40年近くデモクラシーの中で政権を支えてきた主流派政党の失墜や、(ポルトガルやエストニアで見られる)政権フォーミュラの刷新は、現状への不満を背景としてオルターナティヴを求める世論と結びついている。これらの現象が、より長い歴史を持ち、したがってより社会に根付いていると考えられる、先進諸国の主流派政党の今後を占う上でどういう意味を持ちうるのか、第三世界諸国の政治変動にどういう含意を持ちうるのか、本共同研究が議論の端緒を提供できればと願っている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 仙石学	4. 巻 50
2. 論文標題 中東欧諸国における子育て支援策の変容 世界金融危機以後の状況から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ロシア・東欧研究	6. 最初と最後の頁 59-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5823/jarees.2021.59	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Nakai Ryo	4. 巻 4
2. 論文標題 The democratic backsliding paradigm in enlarged European Union countries: In-depth analysis of V-Dem indicators	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Frontiers in Political Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpos.2022.966472	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 伊藤武	4. 巻 2022年12月号
2. 論文標題 イタリア「極右・女性首相の誕生」をめぐる狂騒曲	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 220-228
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 伊藤武	4. 巻 76
2. 論文標題 イタリア 右派メローニ政権の「堅実路線」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 128-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤武	4. 巻 近刊
2. 論文標題 統合懐疑主義の限界 イタリア世論におけるEUと自由貿易支持の検証	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本EU学会年報	6. 最初と最後の頁 158-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中田瑞穂	4. 巻 106
2. 論文標題 東中欧諸国における「法の支配」 - EUの法の支配概念との対立をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立教法学	6. 最初と最後の頁 171-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14992/00021659	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中田瑞穂	4. 巻 25
2. 論文標題 「流行る政党」の作り方 チェコの「ビジネス企業政党」と政党デモクラシーの現在	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 明治学院大学国際学部研究所年報	6. 最初と最後の頁 69-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 馬場香織・リヴィ井手弘子	4. 巻 17
2. 論文標題 2019年北海道市町村議会選挙にみる女性の政治参加 候補者データの分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 年報公共政策学	6. 最初と最後の頁 63-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平田武	4. 巻 2021 -
2. 論文標題 はじめに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 3-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7218/nenpouseijigaku.72.2_3	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 横田正顕	4. 巻 2021 -
2. 論文標題 尖鋭危機と政党システム変化 2010年代のスペイン・ポルトガル・ギリシア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 15-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7218/nenpouseijigaku.72.2_15	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 仙石学	4. 巻 2021 -
2. 論文標題 ジェンダーと反欧州—ポーランドにおける若年層の政治指向	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 44-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7218/nenpouseijigaku.72.2_44	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中田瑞穂	4. 巻 2021 -
2. 論文標題 ヴェイレンス・イシューの政治 チェコにおける「ビジネス企業政党」ANOと政党政治の変容	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 57-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7218/nenpouseijigaku.72.2_57	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤武	4. 巻 2021 -
2. 論文標題 イタリア第2共和制における主流派政党の衰退	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 85-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7218/nenpouseijigaku.72.2_85	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 馬場香織	4. 巻 2021 -
2. 論文標題 メキシコの政党システム変容を捉える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 104-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7218/nenpouseijigaku.72.2_104	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中井遼	4. 巻 2021 -
2. 論文標題 エストニア政権フォーミュラの刷新ー左右両極連立と政党有権者関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 137-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7218/nenpouseijigaku.72.2_137	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中田瑞穂	4. 巻 43
2. 論文標題 人民民主主義・民主主義・ポピュリズム チェコスロヴァキアの1940年代	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東欧史研究	6. 最初と最後の頁 91-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田武	4. 巻 85 (3)
2. 論文標題 二重君主国期ハンガリーにおける責任内閣制の運用 (一)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法学	6. 最初と最後の頁 295-344
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 馬場香織	4. 巻 1437
2. 論文標題 メキシコ左派政権の評価と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ラテンアメリカ時報	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中田瑞穂	4. 巻 13
2. 論文標題 「EU・欧州評議会と東中欧の『統治するポピュリスト政党』の『民主主義』概念をめぐる対立」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 スラブ・ユーラシア研究報告集13『転換期のポピュリズム?』	6. 最初と最後の頁 27 - 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中田瑞穂	4. 巻 22
2. 論文標題 「東中欧における『民主主義の後退』 『民主主義』と立憲主義の分断と接合」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本比較政治学会年報22『民主主義の脆弱性と権威主義の強靱性』	6. 最初と最後の頁 89 - 120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仙石学	4. 巻 57(2)
2. 論文標題 「ボヒュリスト政権の経済政策 ヴィシエグラード諸国の比較から」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『比較経済研究』	6. 最初と最後の頁 15 - 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5760/jjce.57.2_15	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤武	4. 巻 1
2. 論文標題 イタリアと EU 関係 難民問題をめぐるジレンマ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本国際問題研究所・欧州研究会(平成30年度外務省外交・安全保障調査研究事業)『混迷する欧州と国際秩序』報告書	6. 最初と最後の頁 29-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ariyoshi Ogawa	4. 巻 13
2. 論文標題 Normative Systems of Immigration Policies : Why do Sweden and Japan have Stickier Policies than Denmark?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 グローバル都市研究/Global urban studies	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14992/00018801	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaori Baba	4. 巻 57(4)
2. 論文標題 Review "Diversity of Capitalisms in Latin America by Ila'n Bizberg. Cham: Palgrave Macmillan, 2019, xxxviii + 362 pp."	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Developing Economies	6. 最初と最後の頁 371-374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/deve.12218	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 馬場香織
2. 発表標題 「新興民主主義国における安定的な政党システムの変容に関する考察：メキシコの事例」
3. 学会等名 日本政治学会、D7「制度と政党、司法」（2020年9月27日 於京都大学）オンライン
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中田瑞穂
2. 発表標題 「東中欧諸国の法の支配をめぐる政治」
3. 学会等名 2020年度日本政治学会研究大会、D4「<法の支配>をめぐる政治：ヨーロッパ・ロシア・アメリカの視点」（2020年9月27日、於京都大学）オンライン
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takayoshi Uekami, Takeshi Ito, Ryo Fujishima, Yusuke Miyauchi, and Junpei Yamaguchi
2. 発表標題 "Decomposing and Examining the Multiple Aspects of Party Institutionalization: Internal Party Organization and External Electoral Volatility."
3. 学会等名 日本政治学会2020年研究大会・分科会、D3「政党研究の動向：国際比較にみる組織・政策・資金」、（2020年9月27日、於京都大学）オンライン
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takeshi Ito
2. 発表標題 "The Search for a New Pension Mix: Reforms in Southern Europe and East Asia."
3. 学会等名 virtual Annual Conference of the American Political Science Association 2020, Session 32.1 : Aging Policy and Politics Group: Population Aging and Public Policy (September, 10, 2020) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takeshi Ito
2. 発表標題 "The Paradox for Legimatization: Electoral Governance Reforms in Europe and Asia."
3. 学会等名 virtual Annual Conference of the American Political Science Association, Poster Session: Politics and History & International History and Politics (September 12, 2020) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takeshi Ito
2. 発表標題 "Misunderstood Stalemate: The Paradox of Unsuccessful Reforms of Electoral Governance in Contemporary Italy and Japan."
3. 学会等名 Panel [073] "New Perspectives on Electoral Governance," at the 26th International Conference of Europeanists, Madrid, Spain (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中田瑞穂
2. 発表標題 東中欧における政党政治の論理と立憲主義の論理
3. 学会等名 比較政治学会2019年度研究大会、自由企画「世界の自由民主主義の退行を考える 中東欧とラテンアメリカの経験から」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mizuho Nakada-Amiya
2. 発表標題 "Clash over the nature of "Democracy": Governing Populist Party in East-Central Europe vs. the Council of Europe and the EU."
3. 学会等名 Session 112: "Conflicting Values? Democracy, Economy, and Corruption in Central and Eastern Europe," at the 26th International Conference of Europeanists, Madrid, Spain (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mizuho Nakada-Amiya
2. 発表標題 "Clash over the nature of "Democracy": Governing Populist Party in East-Central Europe vs. the Council of Europe and the EU."
3. 学会等名 Panel: 11E "Defending Democracy and Fighting Corruption in the EU," at the 2019 EUSA International Biennial Conference, Denver, Colorado (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Manabu Sengoku
2. 発表標題 "Populist Governments and Economy: Differences between PiS and FIDESZ."
3. 学会等名 2019 SRC Summer International Symposium: Global Crisis of Democracy? The Rise and Evolution of Authoritarianism and Populism, SRC, Hokkaido University, Sapporo
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仙石学
2. 発表標題 ポピュリズム政権の経済政策 ヴィシエグラード諸国の比較から
3. 学会等名 比較経済体制学会2019年度大会、共通論題「ポピュリズム政治とヨーロッパ経済」、一橋大学
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 伊藤武・網谷龍介(編)、古賀光夫・八十田博人・野田昌吾・近藤康史・成廣孝・神江沙蘭・中田瑞穂・千田航・佐藤俊輔・岡部みどり	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 276
3. 書名 『ヨーロッパ・デモクラシーの論点』	

1. 著者名 仙石学	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 216
3. 書名 『中東欧の政治』	

1. 著者名 ファン・J・リンス、横田正顕（訳、解説）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 396
3. 書名 『民主体制の崩壊 危機・崩壊・再均衡』	

1. 著者名 川島真・森聡（編）、高原明生・増田雅之・高原明生・森聡・増田雅之・秋山信将・梶谷懐・津上俊哉・川上桃子・大澤淳・鈴木一人・遠藤乾・森井裕一・伊藤武・宮崎悠・佐竹知彦・木宮正史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 257
3. 書名 『アフター・コロナ時代の米中関係と世界秩序』	

1. 著者名 小谷真男・横田正顕（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 536
3. 書名 新 世界の社会福祉 第4巻 南欧	

1. 著者名 佐々木毅 (編) 阪野智一・安井宏樹・伊藤武・野中尚人・待鳥聡史・谷口将紀・平野浩・加藤淳子・成田憲彦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 262
3. 書名 比較議院内閣制論 政府立法・予算から見た先進民主国と日本	

1. 著者名 水島治郎 (編) 古賀光生・今井貴子・野田昌吾・土倉莞爾・伊藤武・作内由子・田口晃・中山洋平・西山隆行・中北浩爾	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 334
3. 書名 ポピュリズムという挑戦 岐路に立つ現代デモクラシー	

1. 著者名 宮島喬・佐藤成基 (編) 池田和希・柄谷利恵子・久野聖子・清水謙・昔農英明・寺本めぐ美・中坂恵美子・中田瑞穂	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 328
3. 書名 包摂・共生の政治か、排除の政治か 移民、難民と向き合うヨーロッパ	

1. 著者名 網谷龍介・上原良子・中田瑞穂 (編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 260
3. 書名 戦後民主主義の青写真 ヨーロッパにおける統合とデモクラシー	

1. 著者名 仙石学編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 367
3. 書名 新 世界の社会福祉 第5巻 旧ソ連・東欧	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>中東欧・旧ソ連諸国の選挙データ > ハンガリー > 欧州議会選挙 - 第4回 (2019年5月25日 - 26日) https://src-h.slav.hokudai.ac.jp/election_europe/hu/r_904.html</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	空井 護 (Sorai Mamoru) (10242067)	北海道大学・公共政策学連携研究部・教授 (10101)	
研究分担者	中井 遼 (Nakai Ryo) (10546328)	北九州市立大学・法学部・准教授 (27101)	
研究分担者	馬場 香織 (Baba Kaori) (10725477)	北海道大学・法学研究科・准教授 (10101)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	仙石 学 (Sengoku Manabu) (30289508)	北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・教授 (10101)	
研究分担者	横田 正顕 (Yokota Masaaki) (30328992)	東北大学・法学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	小川 有美 (Ogawa Ariyoshi) (70241932)	立教大学・法学部・教授 (32686)	
研究分担者	伊藤 武 (Ito Takeshi) (70302784)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	中田 瑞穂 (Nakada Mizuho) (70386506)	明治学院大学・国際学部・教授 (32683)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関